ISSN 0917-7604
http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/

東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.24, Oct. 1999

● 図書館の役割・意識・運営 - 館長就任にあたって -

● これからの図書館

特別企画：大学改革と図書館（3）
● 「潤い」のある図書館づくり - 大競争時代のマインド改革-

永青文庫蔵雑記類より（五）
● 興津と阿部

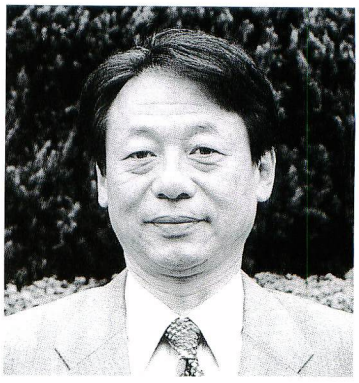
● 特殊資料展「天草・島原の乱」ご案内

永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託
「原城諸手仕寄之図」より

図書館の役割・意識・運営

- 館長就任にあたって -

平　山　忠　一



学生の皆さん

新入生の皆さんも入学後、前期の試験が終了して大学生としての過ごし方、学び方がだいぶ飲み込めてきたことでしょう。入学当時、新入生の約50％が図書館ガイダンスに参加してくれ、あなた達各人の今後の大学生活に対する前向きで真剣な姿を見ることができて大変喜んでいます。

図書館では、学生の学園生活、とりわけ進むべき専門分野を探る道しるべとして“熊大探検”コーナー（ASPECT熊大）を設けました。ここには全学の教官寄贈の著作物、作品、各種報告書などが並べられています。是非、手に取って見てください。その中に皆さんが探している進路を発見できるかもしれません。

また、授業計画書（シラバス）の中で推薦された参考図書は全面的に購入しました。是非とも授業の参考に利用して下さい。今後は、学生用図書として、各教育分野での基礎図書（大学としてあるべき図書、シリーズものなど）の購入も積極的に考えていきます。それ以外にも学習に役立つと思う図書があれば購入希望を出して下さい。

さらに、平成12年度からの新カリキュラムに総合科目として“情報メディアとネットワークの活用”を立ち上げ、レポート・論文を書く手だてを実習的学習を通して学ぶことを目的に開講する予定です。今後の諸君の学習のステップアップにつながればと期待しています。

教職員の皆さん

図書館のあり方を考えますと、それは大学が生産する知を集積し循環させるための核であり、教育・研究・社会とかかわる組織であって、大学自体学のあり方と重複してしまう、そんな存在でしょう。大学図書館は大学の内と外の狭間にあって絶えず情報を媒介できる息づかいが必要です。大学の基礎となる学生教育と研究活動の活性化を意識した積極的な取り組みが必要です。

今、日本は大きな危機を乗り切るため変革がおこなわれています。かつて明治維新、戦後処理がありましたが、今回は民主的な手法で国民が取り組む初めての試みです。痛みも達成感も我々の手の中にあります。その一環に大学改革があります。少子化と機能不全をどう乗り切るか知恵が試されています。

熊本大学の個性は何か？　大学は何をやってきたか、その蓄積はあるか、いま何をやっているか。それらが外から見えるか。多くの問題を抱えたまま独立行政法人に向かってます。今後大学は外からの評価で多くが決まっていくでしょう。入学だって高校生は外から大学を観て選択する、就職だって企業は外から大学を診ている。研究もしかり。しかしそんな社会に立ち向かえる熊本大学を創らねばなりません。図書館もその一翼を担わねば成りません。

これらのことを意識して、大学図書館のあり方、役割・運営意識・対応をキーワードとして挙げリンケージしてみました。右にそれを示します（図1）。さながらさざ波が伝わっていくようなイメージです。内から外へ、外から内へ意識し対応することで相乗的にレベルを高められ、頼れる図書館の姿にしていけると考えています。

風を掴む図書館

大学図書館には、生涯学習・情報教育を含めたより広く豊かなサービスが求められています。貴重書をはじめとした資料そのもの、資料に基づいた付加情報の提供ばかりでなく、皆さんが自分自身の時間をゆっくり持つことができるスペースもたいへん大事です。資料本体、情報そして空間、それらの中で何か新しい風を感じ掴むことができるような図書館にしなければならないと考え、さまざまな取り組みを進めているところです。

このような時期に本学の大学院自然科学研究科の院生グループがACADIA(国際デザイン協議会)主催のコンペで二位に輝いたとの新聞記事を目にしました。“情報技術と自然の融合”をコンセプトに森をイメージした未来の図書館を設計したもので、読書という行為をとおして利用者同士の新たなコミュニケーションが生まれるという斬新なアイディアで米国のＭＩＴ、ギリシャ・アテネ国

立技術大学に囲まれての堂々の入賞でした（図2）。心からお祝いを申し述べたいと思います。

このような若い感性を吸収しながら図書館運営にあたりたいと考えています。

（ひらやま　ちゅういち　附属図書館長）

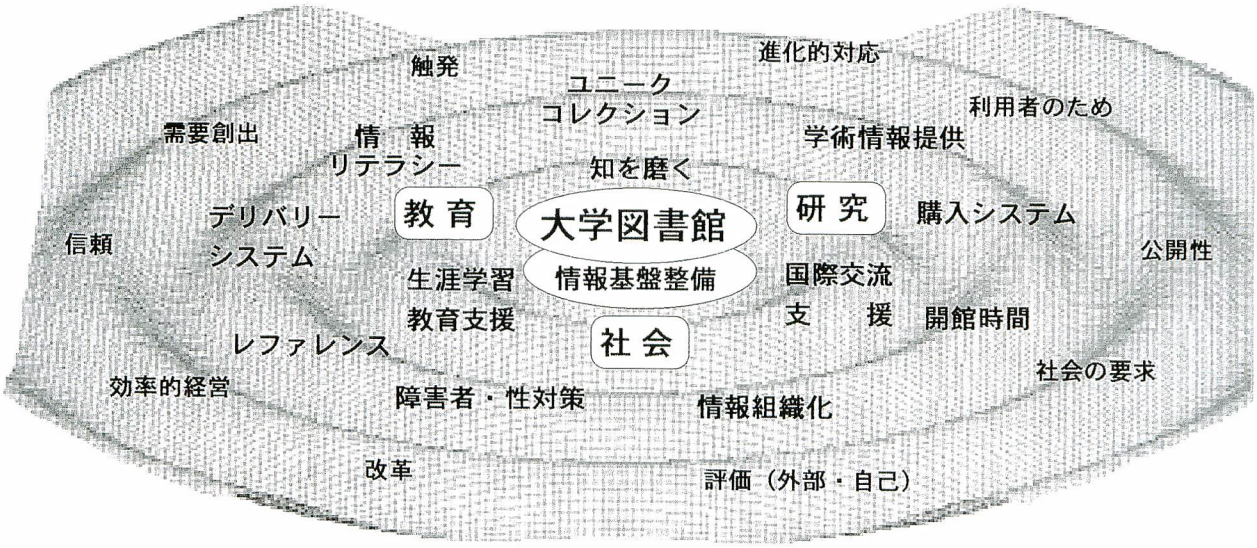


図1　大学図書館を中心にした「さざ波効果」

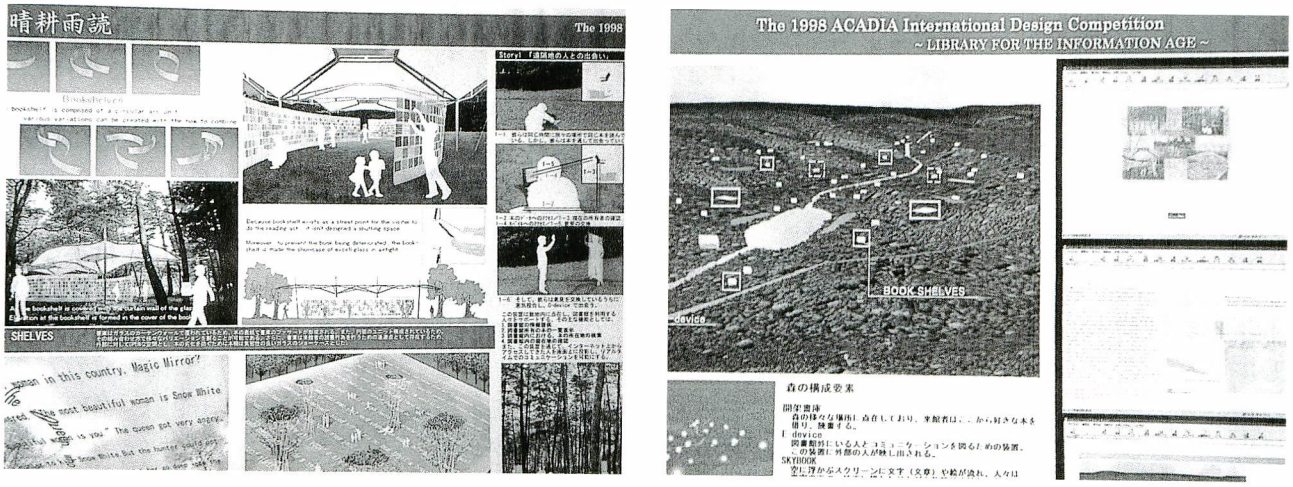


図2 国際コンペACADIAに2位入賞のプレゼンテーション・パネル
（本学大学院自然科学研究科グループ）
URL http://www.acadia.org/competition/winners.html

これからの図書館

石　塚　忠　男

PDFというファイル形式を御存知だろうか？

Portable Document Format の略で、Adobe社というソフトウェア会社により提唱されているファイル形式なのだが、これが今、コンピューターやOS（Operating System）の種類に関係なく使える共通フォーマットとして普及しつつある。

もともと、コンピューターで扱うデータは、文字でも画像でも他種のコンピュータで使えないものではない。テキスト形式とか、GIF*、JPEG*などの汎用フォーマットを使えば、ファイルのやり取りは可能である。ただし、あくまで“素材”としての文字や画像のやり取りであり、もともとの“文書”に戻すためにはそれなりの操作を必要とするし、印刷したものでも貰わない限り本人以外では難しいものである。PDFというのは、この“文書”をファイルのままやり取りするためのフォーマットなのである。

Adobe社が出している「Acrobat」というソフトがあれば、ワープロなどのアプリケーションソフトから印刷と同じ要領でPDFファイルへの変換が簡単にできる。アプリケーションソフトで作成した文書の、色・レイアウトなどは保ったままであるし、このファイルはコンピュータやOSの種類に関係なく開くことができ、元の“文書”と同じものを見れるし、印刷も出来る。

“種類に関係なく”といっても、制約が無いわけではない。PDFファイルを開くためには、「Acrobat Reader」というソフトが必要である。ただし、このソフトは各OS版がAdobe社から無料で提供されている。Adobe社のホームページからもダウンロードできるし、コンピュータ雑誌の付録CD等にも収録されている。“ソフトのインストールが必要”というのが唯一の制約である。

そして、このPDFが、今　図書館を変えようとしている。

研究者にとって「文献」を読むというのは必須である。あることを研究する際には、それが過去どのように研究されていたかを文献で調べ、他の研究者がどこまで進んだかを新着雑誌でチェックする。そして、関連ありそうなものはコピーしてファイルしておく。10年も研究生活を続けていれば、４段のファイリングキャビネットの２、３個はいっぱいになってしまう。置き場所にも困るが、何がどこにあったかを探すのに時間がかかるようになり不便である。

個人レベルですらこうなのである。いわんや図書館ではもっと悲惨である。なにせ、購入した学術雑誌はすべて製本して書架に保存されている。100年以上前からの雑誌が順番に並んでいるさまは壮観だが、新着雑誌の山を見ると、この先どうなるのだろうと不安になる。

ところが最近、学術雑誌がPDF版を公開するようになってきて状況が変わりつつある。新しい文献はPDFファイルで手に入るので、パソコンの画面上で読むことが出来る。ファイルはハードディスクやMOに保存すれば、ファイリングキャビネットが増える心配をしなくてもよいし、キーワードを付けてデータベースソフトに登録しておけば、後から検索することも容易である。もちろん、必要なときは印刷すれば元の雑誌とほとんど同じ品位を再現できる。

PDFファイル（電子ジャーナル）の配布は、インターネットを経由する場合とCD-ROMで行われる場合があるが、CD-ROMも学内で共有することを考えると、図書館としてはインターネットに接続されたパソコンとプリンタがあればいいと極言できる。閲覧室といえば、本を持ちだして読むための机が並んでいるのが今では普通だが、これからはコンピュータがずらっと並んでいる部屋になる可能性は高いのである。

そして、研究者は、インターネットにつながったパソコンが部屋にあれば、図書館に行かなくても文献が読めるようになる。つまり、図書館というところは、電子ジャーナルを購読する契約をする存在ということになる。

現状では、古い文献は冊子体で存在しているわけだし、学術雑誌以外ではPDF出版されているものはまだそれほど多いわけではない。だが、最近では、以前からある電子ブック（PDFとは異なるが比較的汎用的なォーマット）に加え、古文書のCD-ROM化（写真として）が増えつつある。今後、PDFに限らず、電子化された情報が図書館の大部分を占めるようになる可能性はきわめて高いと言っていいのではなかろうか。

今、熊本大学では電子図書館化専門委員会を設置して、熊大図書館の未来の検討を始めている。「書庫としての図書館」でなく、「情報の窓口としての図書館」となる日も、そう遠くないかもしれない。

＊GIF，JPEGは共に画像の汎用フォーマット。ホームページ等の画像ファイルとして使われる。

（いしづか　ただお　薬学部助教授）

特別企画：大学改革と図書館（3）

「潤い」のある図書館づくり

- 大競争時代のマインド改革 -

岩　﨑　司

“ちょっと一服”、熊本の民放ラジオ局に半世紀近くも続いている番組がある。まさに、番組名のとおり、仕事の合間にちょっと一服息抜きをする、そんなことを目的としている小さな番組だ。たかだか、二十数分間、ローカルで歯切れのいい閑話と何曲かの歌謡曲を流しているだけの番組が、どうして半世紀近くも続いているのか驚く。番組のつくりが、よほど地域性や県民の好みに合っているのだろうか。

かつて、二年ほど大学図書館に勤務して、図書館報の発刊に係わった。このとき、館報発行のコンセプトをどこに置くのか、随分と関係者で議論したことを思い出す。結論は、利用者が、ホッと一息入れたくなったとき思わず手に取って見たくなる、そんな“潤い”を持った館報を作ることを目指すこととした。図書館における“ちょっと一服”、そんな役割を担った館報は、八年経った今も発刊のときのコンセプトを大切にしながら、季節感と潤いに満ちた内容で刊行し続けられている。館報のコンセプトが、図書館の機能や利用者の好みに合ったらしい。

ところで、今、大学は、五十年の新制大学制度の歴史の中でも最大の危機に直面している。国立大学が、将来も国立大学で有り続けることができるのか、大学が、次の世紀においても大学として存在し続けることができるのかなど、深刻な課題が論議の焦点だ。

この数年、本学においても、様々な課題に沿って改革が推進されてきた。これらの改革は、大学院、学部、学科、講座、事務組織などの、大学の枠組み、ハードに係わる改革と、教育システム、研究システム、事務処理システムなどの大学の運営、ソフトに係わるものを軸としていた。大学のハードとソフトを、時代の変化や社会の要請に沿ってリニューアルしていく、これが改革のコンセプトとなっていた。

現在も、国立大学への改革の要請は、厳しさを一層加えて引き続いている。社会は、大学に何を求めているのか、大学人として悩むことが多い。ひょっとすると、大学人の意識そのものに疑問を投げかけているのではないか、とそんな考えもしてみたくなる。そうだとしたら、大学の本来の使命である教育に対する情熱や、考え方、気持ち、姿勢、行動などの大学人のマインドの建て直し、その辺りに改革を要請することの原点があるような気がしてならない。大学人が、大学本来の使命と自らが果たすべき役割を見失っていたとしたら、国民全体の奉仕者である国家公務員としての自覚が甘くなっていたとしたら。大学人の、そんなマインドについての真摯な反省を社会が求めているのではないかと思ったりする。改革が、仏作って魂いれず、こんな結果にならないためにも。

ここ数年、私立大学の多くは、二十一世紀は国立大学との大競争の時代と考えて大学改革を進めてきたと言う。一人でも多くの学生を確保することができるような大学づくり、それが私立大学改革のコンセプトだとか。リニューアルされた私立大学には、大学の使命や理念の原点に立ち返った大学像が多かったり、学生の期待に応ようとする懸命な意気込みが感じられたりする。大学の大競争の時代への備えでは、国立大学はそのスタートから遅れをとってしまった感じがする。グローバルな視座での大学の大競争、最後に優劣を決めるのは大学人の資質と目的意識の高さの違いだと言われる。国立大学の独立行政法人化、設置形態の論議の落ち着き先も見えてきた。例え、大学の設置形態が変わっても、大競争に打ち勝って、せめて、次の世紀も大学として存在し続けるために、大学人として自らのマインドの改革と取り組むことが必要だ。

新しい図書館の建設、電子図書館の機能の整備などなど、大学図書館としての改革の要素は少なくない。図書館が、これらへの取組を、強化して早期に実現させていく、重要なことだが大学改革の目線から考えたとき、ただそれだけでは十分ではない。近年、とかく無機質化していると言われる大学にあって、“ちょっと一服”そんな機能と感性を備えた施設も欲しくなる。

利用者に気持ちのゆとりをも提供する、大学で、こんな役割を担えるのは図書館をおいて他にはない。必要な情報を提供する傍ら、心の潤いと安らぎをも提供していく、そんな利用者のための図書館づくり、図書館に目指して貰いたい課題の一つだ。利用者が、“ちょっと一服”できる図書館づくり、館員のマインドこそが支えであると信じて疑わない。マインドの改革、言うは易く行うは難い課題ではある。

（いわさき　つかさ　熊本大学事務局長）

永青文庫蔵雑記類より（五）

興津と阿部

西　田　耕　三

興津とは、鷗外『興津弥五右衛門の遺書』の興津であり、阿部とは、鷗外『阿部一族』の阿部弥一右衛門である。鷗外の歴史小説に関する研究は精細をきわめているから、あるいはどこかで言及されているかもしれないが、いま精査する暇がないので、紹介することにする。

『雑録 古文書集録ナリ』という表題をもつ１冊は、11件の古文書を、おそらくは散逸を恐れて書き写したものだが、その中に「沖津弥五右衛門書翰」（この件名は本書巻頭の目録にあるもの）がある。「沖津」は「興津」と考えてよい。興津弥五右衛門が、主君細川忠興（三斎）の三回忌にあたる正保4年(1647)12月2日に切腹する直前の、11月21日付けの手紙である。宛先の「長岡佐渡守」は、幽斎以来細川家の重臣であった松井康之の子興長で、この時八代を領していた。

十月晦日の尊書相届、忝致拝見候。先以道中船中御無事に廿三日に被成御着候由、扨々目出(ママ)奉存候。私儀も、当月二日に江戸を罷立、同十四日に大徳寺え息災にて上着仕、加様の大慶無御座候。今度罷上候刻も、太守様被召出、結構成御意共にて、御諚にも「其方は冥加に叶たるものにて候。人の上に望を叶候儀はなく候へ共、望の侭に仕、三斎威光を上け、家の威を増候段、近比御満足に思召候」との御意にて、私盃を被召上御戴に成、私一世の面目不過之候。江戸にても方々御振舞被成、色々結構成儀共にて御座候。寺え参候ても、京中の衆被参、一円無隙迷惑仕候。其上、於大徳寺御法事御執行被成、私大慶此上無御座候。天道に叶、貴公様さゑ江戸え御越被成、数年御礼直に申上、世界に残多事少も無御座候。せかれ共の儀は、太守様、帯刀様御親被為成可被下候由御意にて候。此段は貴公様能御存知にて候。作太夫儀は、江戸にて如申上、無調法もの丶儀に御座候間、万事頼上候。当地にての儀少も御気遣被成間鋪候。万端御心入候段、有難奉存候。恐惶謹言。

十一月廿一日　　孤峯
　　不白　(花押)

長岡佐渡守様
　　参尊報

尚々三年の中御一門中熊本八代の侍共、石仏へ情香不被仕、太守様御法度候様に仕成候段無是非候。此儀一句申度候得共、貴公様御ためいかゝに存、申のこし候。

江戸を罷出刻、扇に書上候。道中持申候得共、無御心元思召候はんと存、書付致遣上候。

大抵還他肌骨好不塗紅粉自風流
　誰ための名なれは身より惜らんはかなき
　ものは武士の道

江戸を出日
多年籠中鳥今日穿雲飛

道中の心
　たち出てたひの衣の日も暮は帰そゆかむ
　本の柳に

古人の申置候を私の心に引入候。以上。
十一月廿一日　　孤峯不白
長岡佐渡（破れ）津(ヒ)弥五右衛門
　　〆大徳（破れ）より

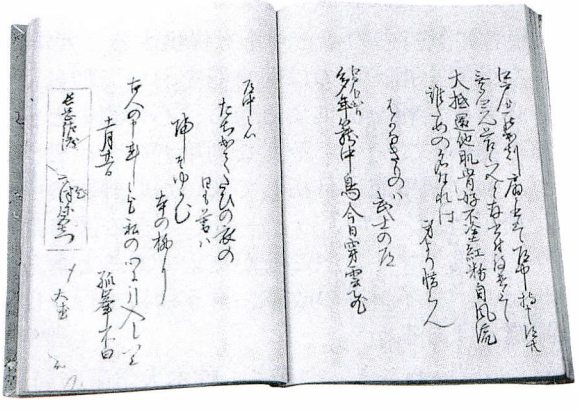


図1 『雑録 古文書集録ナリ』

10月23日に八代に帰った長岡興長が10月晦日付けで出した書簡に対する返簡である。興津は10月2日に江戸を出発して、10月14日に京都の大徳寺に着き、滞在していた（12月2日に大徳寺で切腹するためである）。

興津の心情は率直に記されている。江戸では「太守様」（細川光尚）からもてなしを受け、江戸

の人々とも十分に別れを尽くし、「世界に残多事少も無御座候」と書いている。つまり、この手紙は興長にあてた遺書である。「作太夫」は興津の弟。尚々書の冒頭は、おそらく主君忠興に対する家中の弔い方に関する不満を述べているのであろう。しかし、興長の立場を考慮して、「申のこし候」と言う。最後に付された詩歌は、武人興津弥五右衛門の生涯の精一杯の述懐になっている。「孤峯不白」は興津の号。

阿部の件は『考証雑録』（写本、1冊）に載る。「妙解院様殉死ノ子孫御焼香ノ次第」という文書で、細川忠利に殉じた人々の(1)「御廟前石碑之次第」と(2)「奉書控之次第」の異同を調べ、阿部の場合の異同が特別に大きいものであると言う。すなわち、(2)では、寺本八左衛門、大塚喜兵衛についで３番目に記されている阿部弥一右衛門が、(1)では７番目になっているのである。この点に関し、文書は次のように言う。

　此人奉書控には此所（３番目）に書載有之。石碑の次第にてはこの以下五人目にて、宗像加兵衛次に有之候。此人に限り、外々に見合候へは、別段に次第狂ひ奉書、石碑相違仕候。知行高多御坐候故、殊更に繰上け候哉、不審。

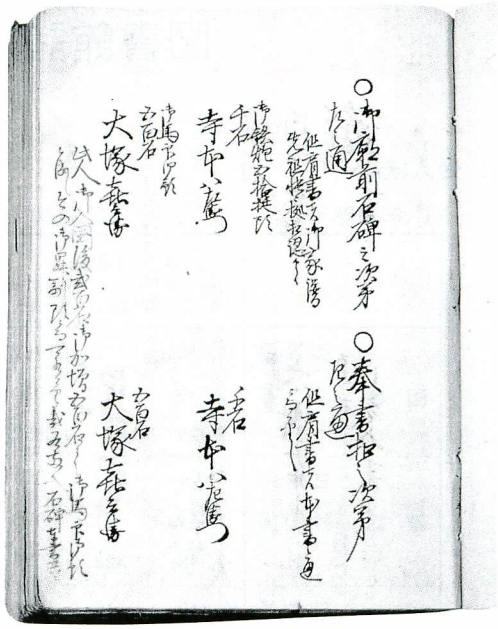


図2 『考証雑録』

『考証雑録』は、表紙右上に「諸向問合返答等も此内ニアリ」、左下に「御日記方」と記す。幕末に作成されたものである。(1)と(2)のこの異同は阿部一族の反抗と何らかの関係があるのだろうと私は推定する。

（にしだ　こうぞう　文学部教授）

ASPECT熊大

（本学教官研究成果公開コーナー）

中央館第１閲覧室内に、“ASPECT熊大：本学教官研究成果公開コーナー”を設けました。

このコーナーには、教官著作物をはじめ、シラバス、科学研究費報告書など、熊本大学に関する資料を集めています。是非、ご利用ください。

また、このコーナーの充実を図るためにも本学関係者の方々には、研究成果の寄贈をよろしくお願い致します。

図書館諸統計（平成10年度）

Ⅰ 受入統計

(1) 年間受入

		中央図書館			医学部分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈他	小計	購入	寄贈他	小計	購入	寄贈他	小計	
図書	和漢書	9,036	1,726	10,762	255	566	821	81	48	129	11,712
	洋書	2,989	2,101	5,090	184	1,314	1,498	45	468	513	7,101
	計	2,025	3,827	15,852	439	1,880	2,319	126	516	642	18,813
雑誌	日本語	1,704	1,297	3,001	219	775	994	27	160	187	4,182
	外国語	1,644	31	1,675	564	164	728	76	20	96	2,499
	計	3,348	1,328	4,676	783	939	1,722	103	180	283	6,681
新聞	日本語	10	16	26	4	0	4	6	3	9	39
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	13	21	34	5	0	5	6	3	9	48

(2) 蔵書

		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
図書	和漢書	682,967	70,266	15,085	768,318
	洋書	327,855	100,230	19,098	447,183
	計	1,010,822	170,496	34,183	1,215,501
雑誌	日本語	12,541	2,054	356	14,951
	外国語	5,389	1,977	390	7,756
	計	17,930	4,031	746	22,707

Ⅱ 利用統計

(1) 開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
開館日数	313	318	328	959
時間外開館日数(内数)	261	271	270	802
入館者数	369,449	147,263	108,834	625,546
時間外入館者数(内数)	86,699	40,549	34,624	161,872
貸出冊数	42,915	7,897	1,018	51,830

(2) 相互利用(他大学等との現物貸借・文献複写)および学内文献複写

		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	計
現物貸借	依頼冊数	576	6	4	586
	受付冊数	325	0	2	327
文献複写	依頼件数	4,279	4,308	1,176	9,763
	受付件数	1,847	4,401	1,345	7,593
学内での文献複写件数		324	191	186	701

(3) 貴重書等の利用(中央図書館)

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	18	227	16
利用冊数	709	5,252	308

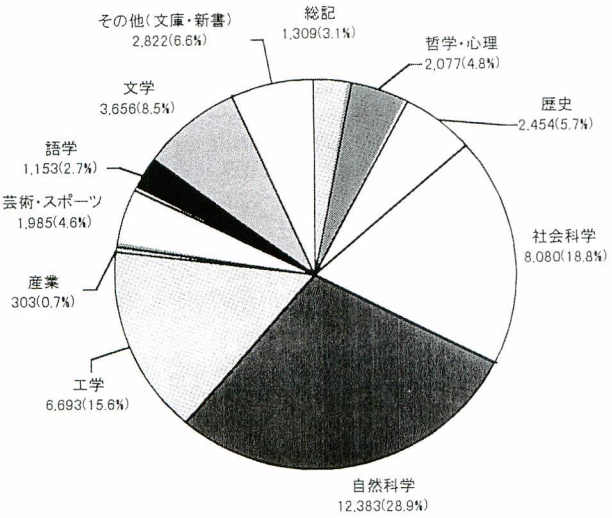
(4) 視聴覚資料の利用(中央図書館)

ビデオ・LDの利用件数	2,532
CD-ROM*の利用件数	81

*スタンドアロンのみ

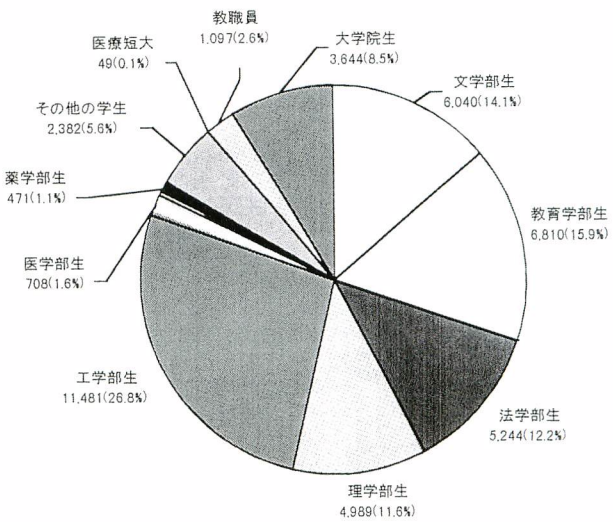
分野別貸出状況（中央館）

(5) 分野別貸出状況（中央図書館）



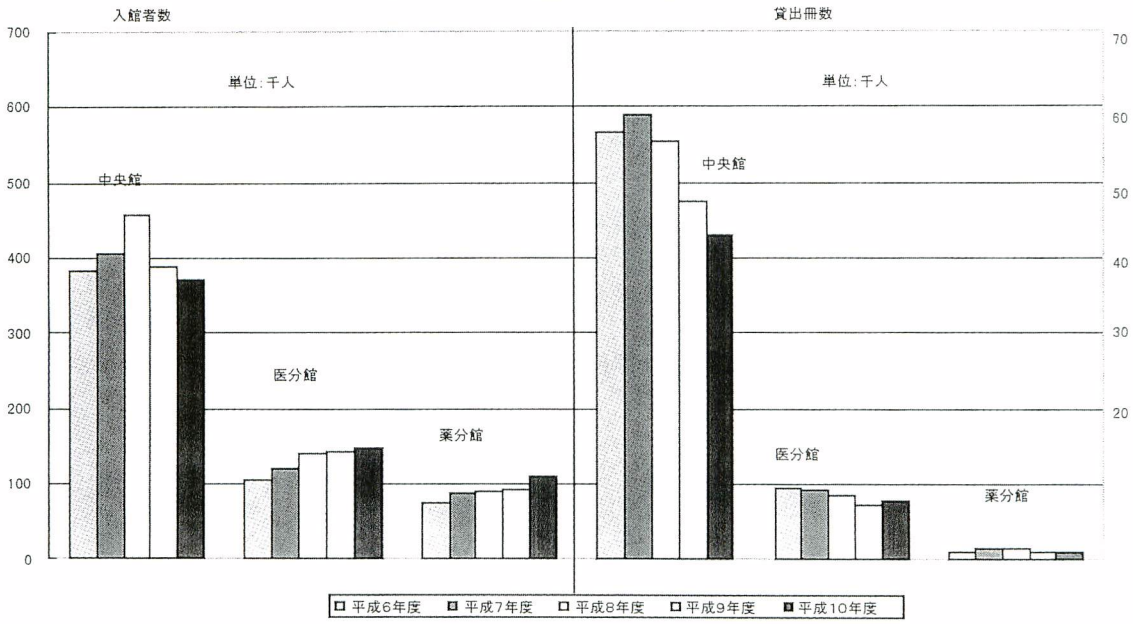
学部別貸出冊数（中央館）

(6) 学部別貸出冊数（中央図書館）

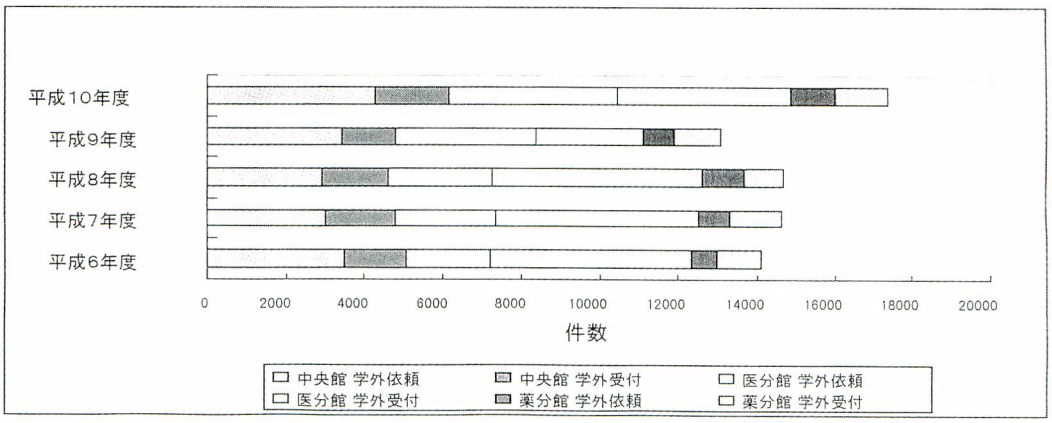


Ⅲ 年次推移

(1) 入館者数・貸出冊数の推移



(2) 他大学等との相互利用（文献複写のみ）の件数の推移



本学教官寄贈図書（平成11年7月～8月）
ASPECT熊大コーナーに配架しています。

熊本県希少野生動植物検討委員会
(代表　内野明徳理学部教授)

くまもとの希少な野生動植物 : red data book / 熊本県希少野生動植物検討委員会(代表 内野明徳). -- 普及版. [熊本] : 熊本県環境生活部自然保護課 , 1999.3.
中央館・教官著書公開コーナー：403/Ku,34

熊本大学小泉八雲研究会

ﾗﾌｶﾃﾞｨｵ･ﾊｰﾝ再考　続 : 熊本ゆかりの作品を中心に / 熊本大学小泉八雲研究会編.
東京 : 恒文社 , 1999.6.
中央館・教官著書公開コーナー：933.6/R,12

岸川俊明助教授（黒髪地区放射性同位元素総合研究室）

Proceedings of the Asia-Pacific Symposium on Radiochemistry, 6-9 October 1997, Kumamoto University, Kumamoto, Japan : "APSORC '97 "
[edited by] T. Kishikawa, Y. Maeda, T. Nishida
(Journal of radioanalytical and nuclear chemistry : an international journal dealing with all aspects and applications of nuclear chemistry. Vol.239, no.1 - Vol.239, no.3, 1999)
Amsterdam : Elsevier Science .
中央館・教官著書公開コーナー：539/J,82

21世紀のﾊﾟﾜｰ : 教育か破局か / 有馬朗人, 岸川俊明編著.
東京 : 現代工学社 , 1999.7.
中央館・教官著書公開コーナー：370.04/N,73

桑原莞爾教授(文学部)

ｲｷﾞﾘｽ関税改革運動の史的分析 / 桑原莞爾著.
福岡 : 九州大学出版会 , 1999.2.
中央館・教官著書公開コーナー：678.3/Ku,95

図書館の最近の動きから
（平成11年5月～8月）

夏季休暇期間中の土日開館実施

中央館では、利用者からのご要望にお応えして、8月14日(土)から、夏期休暇期間中の土曜日および日曜日を試行的に開館しました。
夏季休暇中だったにも関わらず、通常期間同様、多くの利用者が訪れました。

一般市民への貸出開始で熊日新聞に紹介記事

中央館では4月から、一般市民の方への館外貸出を実施していますが、その紹介記事が7月5日(月)の熊本日日新聞に掲載されました。
掲載以後、市民の関心も高くなり“図書館利用証”の申請者は、100名近くになりました。

燻蒸のため貴重書庫・一般書庫を一時閉鎖

“燻蒸”とは、密閉した空間で薬剤をガス状態にして一定時間保持し、有害生物を駆除することをいいます。図書館でも、国指定重要文化財である阿蘇家文書をはじめとする貴重書庫収蔵の史料保存・保護のため、定期的に燻蒸作業を行っています。
今年度の作業は、7/30～8/1に実施しました。燻蒸ガスは有毒で、高濃度では致死、低濃度でも各種の障害を招く危険があるため、貴重書庫は半月、一般書庫も３日間閉鎖しました。

目録システムとILLシステム地域講習会を開催

学術情報センターと熊本大学附属図書館共催で目録システム講習会（図書コース）とILLシステム講習会を開催しました。
本学では、平成3年度（ILLシステム講習会については平成7年度）から毎年講習会を開催しています。今年度は、目録システムを6月21日～23日に、ILLシステムを24日～25日に実施し、本学以外にも県下をはじめ、福岡・長崎・大分の大学図書館職員、総数20名が受講しました。

予告：在校生ガイダンス

図書館では、より多くの方々に図書館サービスの内容を理解していただき、様々な情報資源を活用していただきたいと考えています。
４月に、新入生対象のガイダンスを実施し、好評を得ました。今秋は、在校生を対象としたガイダンスを実施する予定です。
実施時期・内容等の詳しい情報は、図書館ホームページでPRしていきますので、ご覧ください。(http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp)

附属図書館長の交替

5．15　退任　金原　理（文学部）

5．16　就任　平山忠一（工学部）

委員会報告（平成11年5月～8月）

附属図書館運営委員会

■ 平成11年度第1回（5月10日）
[協議事項]
(1)文献複写規則の改正について (2)選書専門委員会の設置について
[報告事項]
(1)医学部分館の運営について (2)大型コレクション等の要求順位について (3)研究用図書資料の要求順位について (4)シラバスに対応した参考図書等の購入状況について (5)図書館ガイダンス等の実施状況について (6)第29回九州地区国立大学図書館協議会等について (7)図書館資料の燻蒸について（報告と依頼） (8)科学研究費補助金の交付内定について

■平成11年度第2回（7月7日）
[協議事項]
(1)電子図書館的機能の強化、充実の方策について (2)中央館の増改築（平成12年度概算要求）について (3)学生用図書購入費等の配分（案）について (4)電子ジャーナルの本学での対応について (5)図書館運営委員会等の効率的な運用について (6)重複した図書館資料等の処分等について (7)平成11年度教育改善推進費用（学長裁量経費）の要求について
[報告事項]
(1)第46回国立大学図書館協議会総会について (2)学術情報センター地域講習会の実施について (3)第16回附属図書館特殊資料展、講演会の開催について (4)図書館資料の燻蒸について

附属図書館専門委員会

■平成11年度第1回電子図書館化専門委員会(8月30日)
[協議事項]
(1)専門委員会設置の背景 (2)電子図書館の定義及び他大学の状況 (3)熊本大学における電子図書館的機能の整備状況 (4)平成11年度の事業予定 (5)図書館の改善方針と電子図書館化による対応

医学部分館図書委員会

■ 平成11年度第2回(6月11日)
[協議事項]
(1) 平成10年度決算報告 (2) 平成11年度予算（案） (3) 中央館学生用雑誌等の選書 (4) 分館コアジャーナルの2000年度継続購読の調査 (5) 日本医学図書館協会脱会について

■平成11年度第3回(8月11日)
[協議事項]
(1) 平成11年度第2回附属図書館運営委員会の報告 (2) 医学部分館備え付けの2000年版外国雑誌の購読調査について (3) 平成11年度学生用図書学部別選書について

薬学部分館図書委員会

■ 平成11年度第1回(5月27日)
[協議事項]
(1) 平成10年度決算報告について (2) 平成11年度予算について (3) 外国雑誌新規購読の要望について
[報告事項]
(1) 平成11年度時間外利用者数について (2) 図書館利用証と24時間入退館システムのIDカード切り替えについて (3) 資料の燻蒸処理について

■ 平成11年度第2回(6月29日)
[協議事項]
(1) 平成12年度版外国雑誌講読について (2) 時間外利用の4年生への拡大について

日誌（平成11年5月～8月）

5．10	図書館運営委員会
5．20～21	第70回日本医学図書館協議会総会（福岡市）
5．25～27	平成11年度国立大学附属図害館部課長会議および国立大学図書館協議会特別委員会（東京医科歯科大学）
5．27	薬学部分館図書委員会
6．2～4	レファレンス・ケースDB構築検討ワーキンググループ会議（琉球大学）
6．3	熊本県図書館連絡協議会理事会（熊本県立図書館）
6．11	医学部分館図書委員会
6．21～23	目録システム地域講習会
6．24～25	ILLシステム地域講習会
6．23～24	第46回国立大学図書館協議会総会（仙台市）
6．29	薬学部分館図書委員会
7．5	市民への貸出紹介記事（熊日新聞）
7．7	図書館運営委員会
7．12～30	平成11年度大学図書館職員長期研修（つくば市、東京）
7．21～23	熊本大学（県内4機関合同）主任研修（阿蘇青年の家）
7．28	本荘地区図書館準備委員会
7．30	貴重書庫燻蒸（7／28－8／15貴重書庫閉鎖）
8．5	ACADIA国際デザイン協議会入賞者（大学院自然科学研究科院生）との懇談会
8．11	医学部分館図書委員会
8．14	夏季休業期間中の土日開館試行（中央館）
8．20	熊本県大学図書館協議会実務者研修（熊本県立大学）
8．27	九州地区医学図書館協議会（九州大学）
8．30	電子図書館化専門委員会

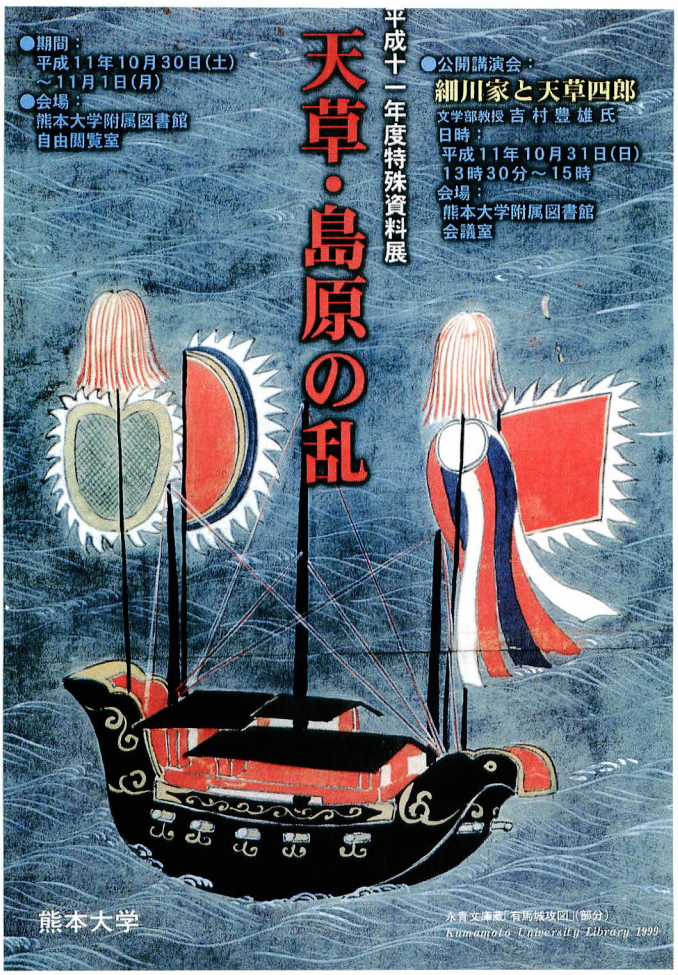
平成11年度特殊資料展

天草四郎は実在したのか！

天草四郎は、1637～8年（寛永14～5年）に起こったいわゆる「天草・島原の乱」における一揆勢の「盟主」・「総大将」とされているがその実相はほとんどわかっていない。実在を裏付ける確実な史料はないといってよい。

こうした謎にみちた天草四郎の人物像をつくりあげるのは、実は肥後細川家であり、細川家臣の手によって四郎はその短い生涯を終える。

細川家の「天草・島原の乱」に関する史料は、他大名家とは比較にならない程の質量であり、天草四郎関係の史料も独占している。



今回の特殊資料展では、「天草・島原の乱」に際して、いわば情報センターとなった細川家の関係史料の中でも特に注目される史料を選び、展示・公開する。

そして「講演会」では、これらの史料から幕藩制国家確立期に起きた「天草・島原の乱」の史的位相を考えて、さらに天草四郎の実像に迫りたい。

その上で、もし天草四郎が実在しなかったとすれば、それは何を意味するか、皆さんとともに考えてみたい。

◆ 特殊資料展

テーマ　『天草・島原の乱』
期　間　平成11年10月30日（土）～11月1日（月）
時　間　10:00～16:00
会　場　附属図書館自由閲覧室（B1F）

◆ 公開講演会

演　題　『細川家と天草四郎』
講　師　吉村豊雄氏（熊本大学文学部教授）
日　時　平成11年10月31日（日）13：30～15：00
会　場　附属図書館会議室(2F)

◆ 主な出品資料

有馬城攻図、キリシタン立帰一揆起申村々人数之事、四郎母・渡辺小左衛門申口書付、四郎法度書、有馬城ニ放火仕者之覚書、手負討死目録…
（永青文庫39点、松井文庫6点）

編集後記：今年も特殊資料展の時期となりました。図書館が保存している貴重な歴史資料をご覧いただく良い機会です。どうぞお越し下さい。

図書館では古文書から現在刊行中の本まで紙を媒体とした資料を保存してゆく一方で、最近は電子的資料の提供も展開しています。さらにそれら各種資料へのアクセス方法などを紹介するリテラシー教育にも取り組んでいます。

“保存システム”、“電子ジャーナル”、“電子図書館”、“リテラシー教育”これらは大学図書館が直面するテーマで、今年度参加させていただいた文部省主催の「大学図書館職員長期研修」の中でもとりあげられ、先進的な事例が紹介されていました。

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)*
第24号　平成11年(1999年)10月発行
発行所　熊本大学附属図書館
〒860－8555 熊本市黒髪2-40-1
TEL: 096-342-2273　FAX: 096-345-9087
http：//www. lib. kumamoto-u.ac.jp/tokogen/
編　集　浜崎修一，梅尾勝征，甲斐重武，永村典子，川内野祐子，浜崎千雅

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。